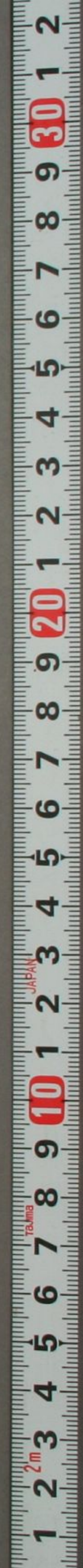




七事書



伊地知文庫
文庫20
429



七事目録



廻廊之式
巳席之式
茶力之式
花月之式
敷席之式
旦坐之式
一二三之式

附花寄

廻花ノ式



一 時花の花ふくと花具に細水注ぐと茶巾と巻て

並花切小刀に運も花巻く取す 折金花一返二返

或は花も各花と入替るや 但茶湯に用成り候

此の式の花

一 床例の如く花入と熱並茶内も客名堂に置く

主客花巻持お茶爰の口花具をふに並て一礼す

客名堂廻りしこ主客花巻と持ち座る方 但座は

又合ふと一始と花巻

一 主と客と一礼ありて後帝次一礼ありて花を入給ふ
即ち座と客と一礼ありて前めりて花を
見と座一礼ありて花と揚又自ら花を令座と客
但花揚一礼主に給一礼一礼ありて
一礼ありて一礼ありて

一 何返り家ゆき二返目より花揚禮
又引中思ふ意一礼あり

一 信と花と客と座にありて何れも信

花客花を入りて座より花揚ありて水邊に給ふ
座と客と座と客と花揚と揚と座と客と
口より一礼ありて取入也

一 花と座と客と座と客と

一 客と座と客と座と客と

附花寄り式

一 花入の定りしより花入のくわい

但此凡花を十箇共
取合依りしより

六十箇一箇を計りておぼしめて花入のくわい

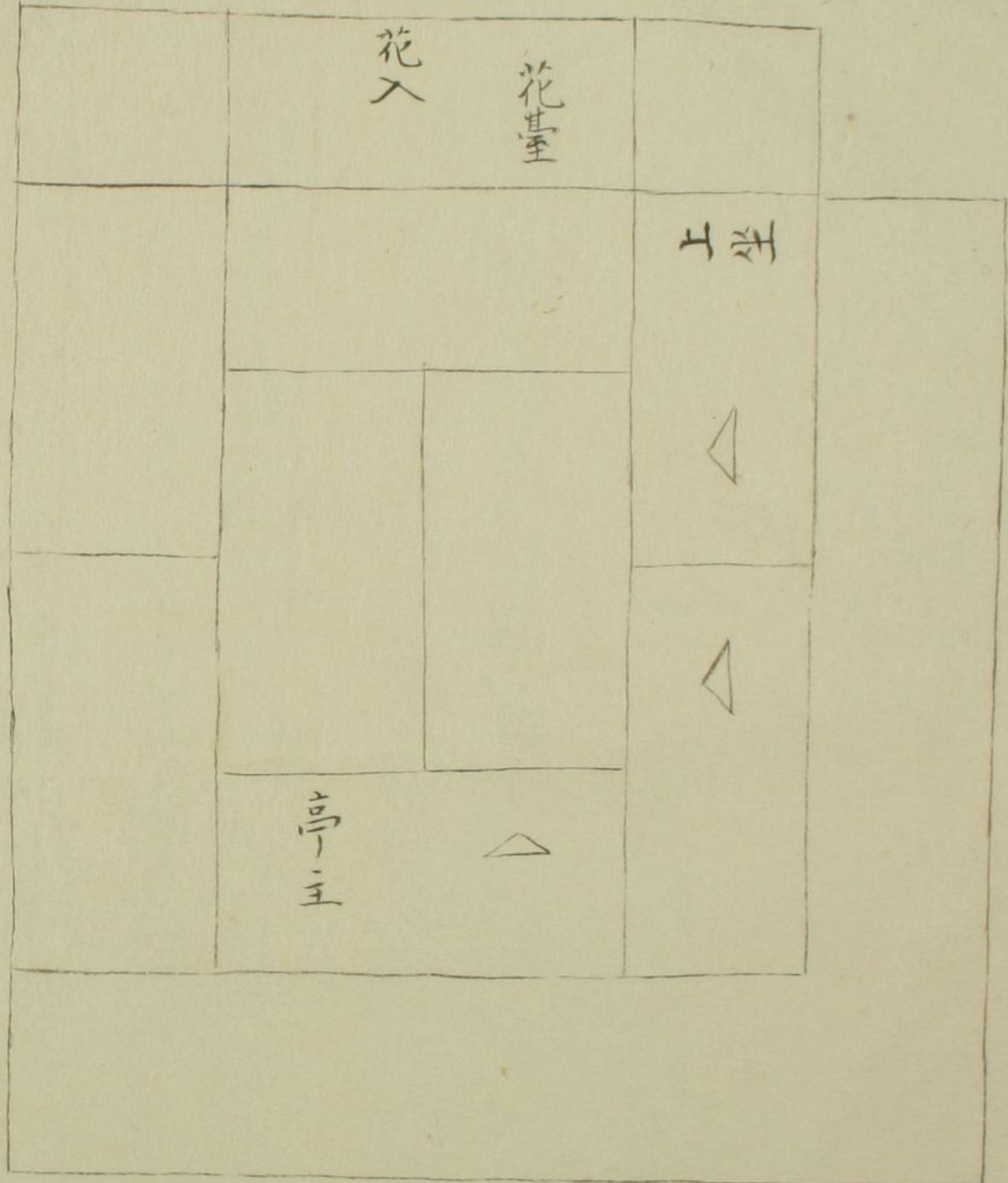
寄合のくわいと生かす一壺拵後屏風を板式看板是

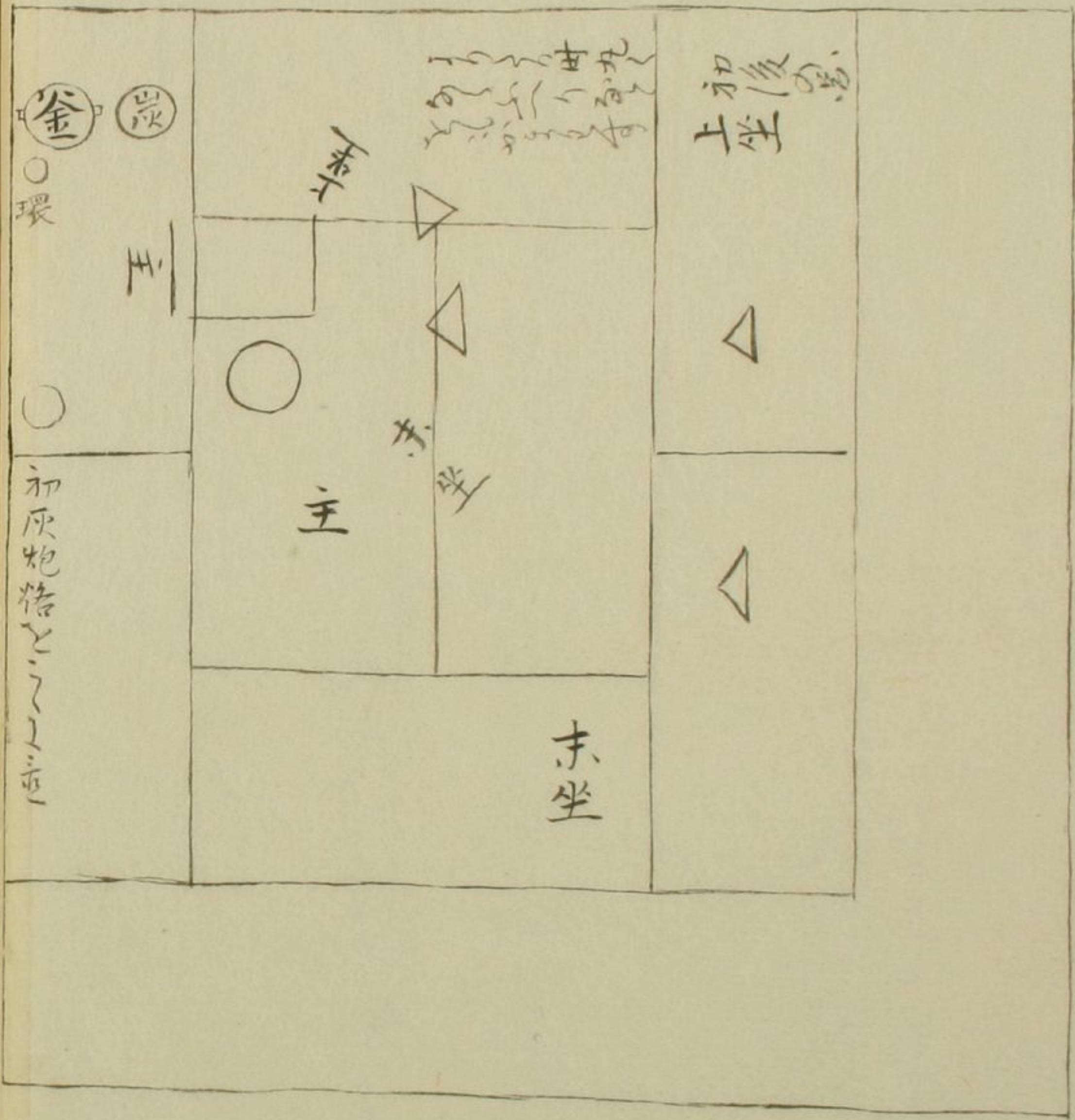
等と用花の組かすの花屋のくわいと花のくわいと

この花寄りの定りし式は花のくわいと花のくわいと

好く之風流を敬ふ也

但花を生かすより花入のくわいと
文りしより一具より花のくわいと





茶力フキ之式

一 茶室種々客一程と申す可客分但室種々の差客一程加へ

都合九つ但之程々客或之種々客一程と申す 長し客を載る座子又六榻の傍

並出切掛の札等を用く茶室五人合す

但成る茶の味をきくしとく名とをきき茶の味をきく事

一 茶室茶師の名字と申す此の記録何事も名字と申

なり但れ茶の上と申す茶師の名字を書き下しとく名とをき

一 掛板ハ白紙ハ多ク厚紙ハ少ク各字を書き書院行紙

折ノ掛 但書ハ多ク折ノ掛ハ少ク
又合巻ノ掛ハ少ク折ノ掛ハ多ク

一 札紙ハ大粒ノ合巻切掛紙ハ編折紙ニ付テハ少ク小粒ノ合巻

紙ハ折リテ少ク折紙ハ紙ノ多ク之ヲ文法ニ付テ押入書院

紙ノ間ノ隙ニ或ハ透紙ヲ入ル勝リ也或ハ或ハ前紙紙

又合巻ハ掛ノ少ク折紙ハ多ク

一 通付ニ通付ノ後ニ又一人ノ字ヲ入ル少ク又一人ノ字ヲ入ル多ク

式法

一 葉内ノ折リノ客者中ノ一ノ字ヲ入ル少ク又一人ノ字ヲ入ル多ク

本ノ紙ハ多ク客者中ノ一ノ字ヲ入ル少ク又一人ノ字ヲ入ル多ク

は付通勝リ少ク折紙ノ前ノ折紙ノ文法ニ付テ折紙紙

折紙ノ前ノ折紙ノ文法ニ付テ折紙紙

通付中ノ折紙ノ前ノ折紙ノ文法ニ付テ折紙紙

又水漏ニ付テ折紙ノ前ノ折紙ノ文法ニ付テ折紙紙

折紙ノ前ノ折紙ノ文法ニ付テ折紙紙

通付折紙ノ前ノ折紙ノ文法ニ付テ折紙紙

前ノ折紙ノ前ノ折紙ノ文法ニ付テ折紙紙

一 上庄杉板をぬておく上庄一庄

一 主方桐抄と引籠札の茶点の申す所

茶点とは何所通茶碗とぬつ上庄一庄、
中庄一庄、他通茶碗の時ハ上庄申す所、又中庄、
下庄

一 上庄煎茶の茶を飲巡す事如常

一 上庄主方茶抄と丸桐、丸板茶碗をぬておく事

又二此申す所、丸板茶碗と丸抄と丸板

一 申す所、丸板茶碗をぬておく事、
但通茶碗、丸板茶碗、丸抄と丸板

一 主方茶碗と丸茶と点おす事、
茶碗をぬておく事

一 客名紙の茶より一紙か、
丸茶碗、丸茶碗と

御一札をぬておく

一 試の茶、茶点、茶二庄、
巡り、申す所、上庄一札

丸茶、茶抄と丸茶の丸茶、
丸茶、丸茶、丸茶、丸茶

丸茶、丸茶、丸茶、丸茶、
丸茶、丸茶、丸茶、丸茶

丸茶、丸茶、丸茶、丸茶、
丸茶、丸茶、丸茶、丸茶

丸茶、丸茶、丸茶、丸茶、
丸茶、丸茶、丸茶、丸茶

一 主方益成口是 他方益成 兼成未成 一為重之方

本成益成之時兼成と通ふ所 他方益成未成人兼成

主方益成口是時 兼成益成と書也

一 主方益成と書る方 一札ありて 札成と書る也

益成札成と書して 札と書るは 札と書るなり也

未成益成と書る方 兼成と書る方 通ふ方 成成と書る

一 主方兼成人と書る兼成と書るなり也

通ふ兼成と書るなり也

一 主方兼成人と書る兼成と書るなり也

通ふ兼成人と書るなり也

他方兼成人と書る通ふと書るなり也 目方兼成人と書る通ふと書るなり也 目方兼成人と書る通ふと書るなり也

兼成兼成と書る方 兼成人と書る方 通ふ方 成成と書る方

一 主方兼成人と書る兼成と書るなり也

通ふ兼成人と書るなり也

一 主方兼成人と書る兼成と書るなり也

通ふ兼成人と書るなり也

兼成人と書る 但通ふと書る方 兼成人と書るなり也

一通ある時、何れの中、
中程出るも、
一 通ある時、何れの中、
中程出るも、

一 中程切り、
中程切るも、

但細中程切るとは、
何れの中程切るとは、
中程切るも、

一 試者の、
試者の、

又、
又、

同之試

一 兼、
兼、

但二種、
或は、

一 式法、
式法、

他、
他、

一 主、
主、

と、
と、

一 折、
折、

下、
下、

一 記、
記、

一 属、
属、

一 七試揚子掛板の字を置成立しと鳥を前よりせ
 何れ御の何鳥を字の如く御之

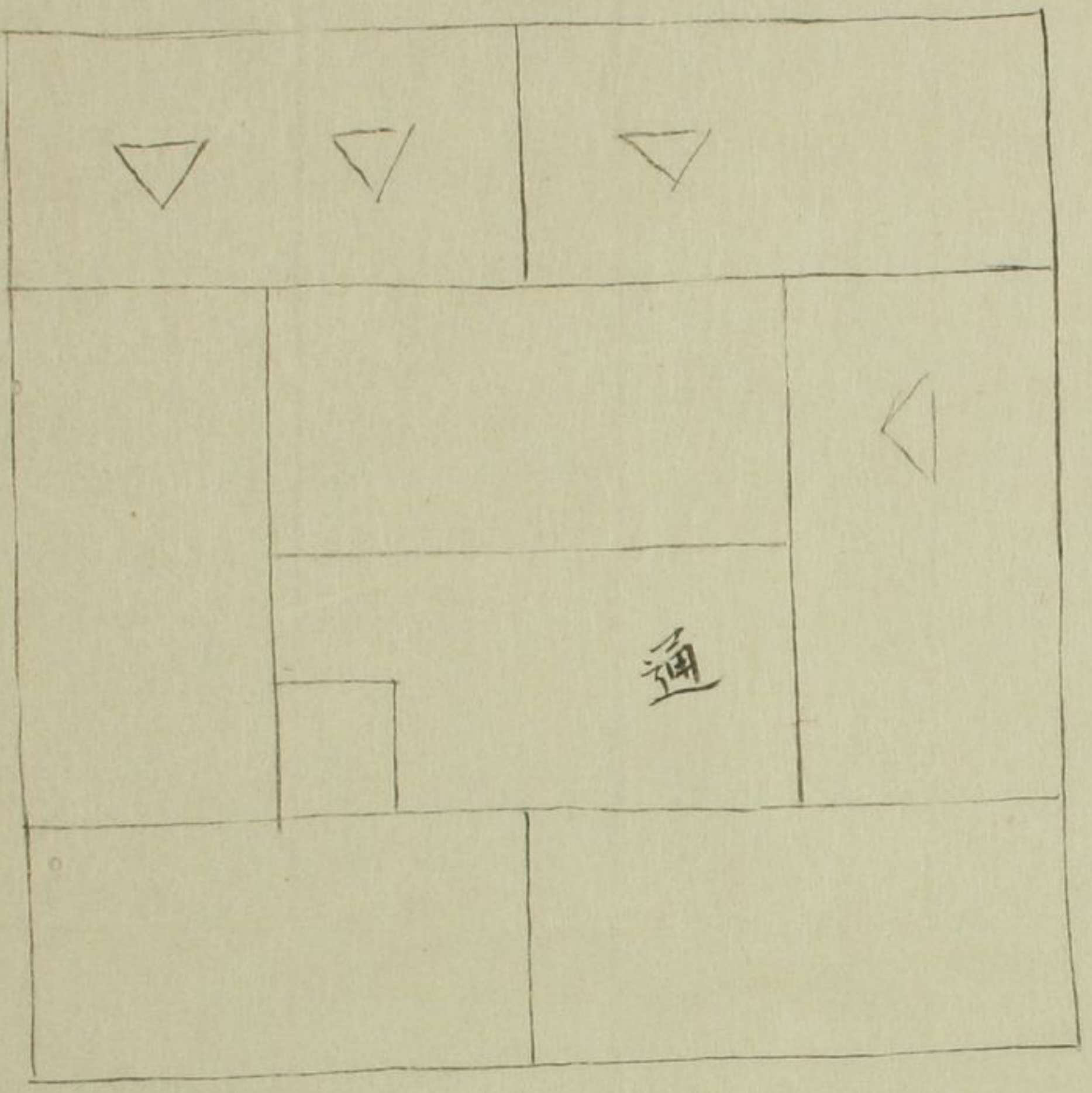
一 茶經圖茶歌

勝若老仙不二攀手
 輸同降將云竊取

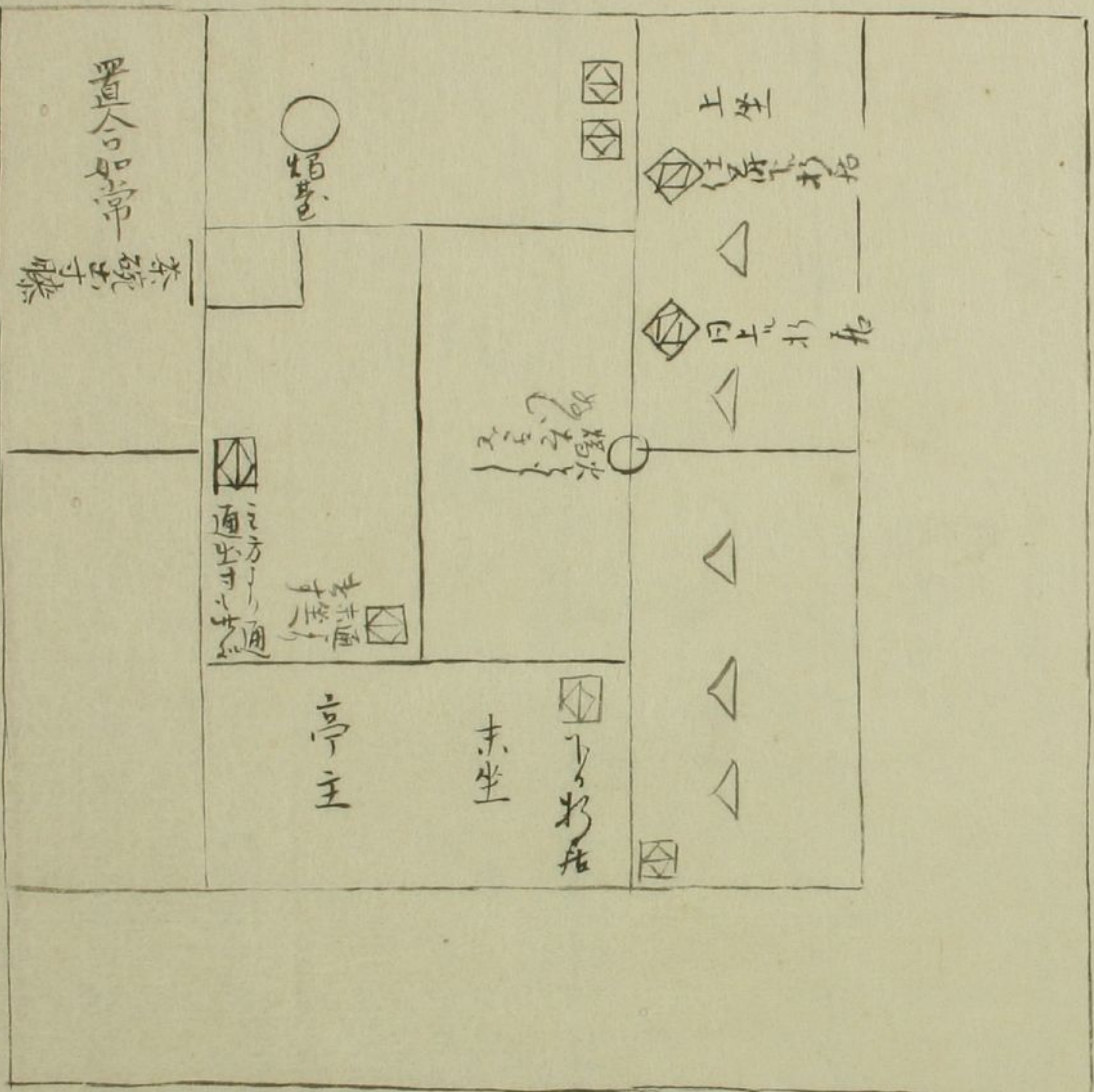
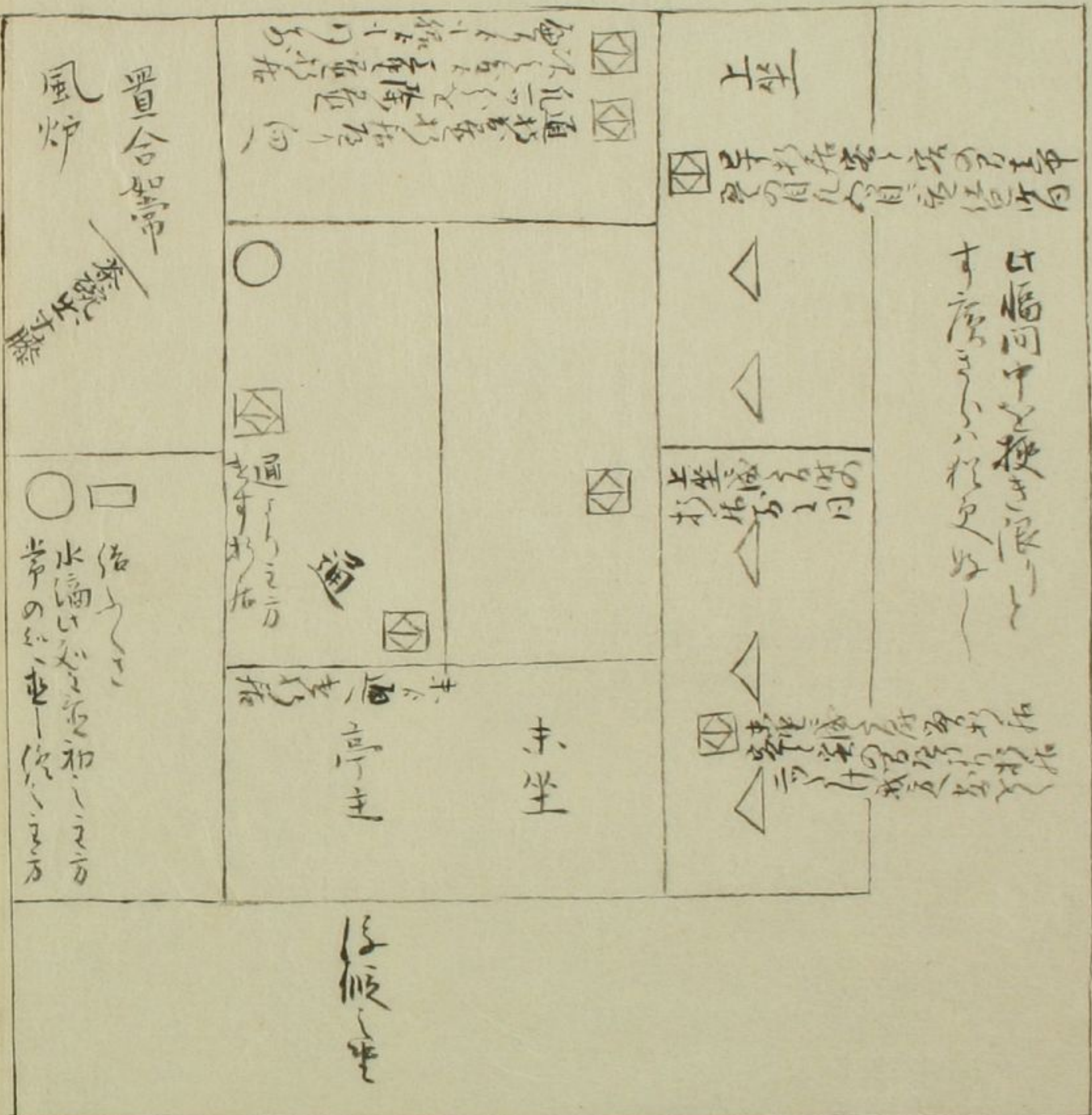
一 首中並の茶を飲ふころしと云ふは

古今の茶カフキをいふはさしと云ふも茶カフキをいふはさし

一 茶カフキハカフキと云ふは人の遊ひ事くさるる歌茶好
 書しつは侍ふさうりなうと左来より之書と不同行候右に書也



卷月之式



十種香々札

式ハ札の紋竹杖紋柄乃紋行れ其借用の花をさき方
として葉を長月紋の中の方として葉紋
賓主平換札十二枚の内花の平札一枚月乃
平札一枚月乃平札一枚之枚字名の札一枚
都令八枚と申但月多し札紫檀葉想うるを
札取らる
こん竹柄の外何道いそももんこの平柄
まうせと申札の紋凡杖竹柄とぬい外名
のり好紋見合申ありや

十種香々折店

札と同平柄葉借り申文字一より十までその内竹柄
申中

一 二葉系の外側ある書院へ給へる吉札後 通十の

の者申御座る札と
各葉斗柄に云 滋々程所後柄と申由

獅子柄と申可柄柄も勝れの程へ人形と合をさうしけし
て折店へ入る人程少し所ハ花月
乃中なる札も際

可重し後風折と申屏風と申可衣柄乃同と申形

衣柄柄と申但然申合給へる客入と好れハ月紙二枚客入
を通有り

一 著者相考一札して馬の心算を
 如修く中に又八岸の所地路抄火と書す此風抄と
 拭紙羽多布汁抄書抄色或風抄と稱す事と有通の
 より抄抄抄と書す事と有ひと云く此等抄抄
 入抄抄抄と書す事と有ひと云く此等抄抄

一 又亦之茶果を始終運紙始末と運紙通紙
 始通運紙と書す事と有ひと云く此等抄抄
此の通紙

八通運紙と書す事と有ひと云く此等抄抄
 川後又書候所と云く此等抄抄

一 上巻紙一紙して右の抄抄と左の抄抄と
此の通紙

一 抄抄と書す事と有ひと云く此等抄抄
此の通紙

一 抄抄と書す事と有ひと云く此等抄抄
此の通紙

一 抄抄と書す事と有ひと云く此等抄抄
此の通紙

一 抄抄と書す事と有ひと云く此等抄抄
此の通紙

一 抄抄と書す事と有ひと云く此等抄抄
此の通紙

此の通紙と書す事と有ひと云く此等抄抄

未だ下りて打取入候と、床と中へ廻りて是より
 一 主方路へ進き立てて、一は下り通りと静か
 水建乃前候打取、浴く積り候付候なり
積り候と云ふは、積り候なり
 一 主方へ進み候、一は下り一は上り候と立て候なり
 此等、亦、内水漏と打取候なり

● 此等、一は下り候、一は上り候と立て候なり、此等、一は下り候、一は上り候と立て候なり、此等、一は下り候、一は上り候と立て候なり

入候なり、上り候、下り候、一は下り候、一は上り候と立て候なり、此等、一は下り候、一は上り候と立て候なり

一 主方打取候と云ふは、一は下り候、一は上り候と立て候なり

一 主方茶と云ふは、一は下り候、一は上り候と立て候なり

一 主方茶候と云ふは、一は下り候、一は上り候と立て候なり
此等、一は下り候、一は上り候と立て候なり
 の心、一は下り候、一は上り候と立て候なり

通の者も成りたてりて茶碗とす可の後品乃前へ並

一 主方茶碗長茶碗とありて茶碗と名の茶碗茶碗の

ゆく出りて茶碗取る前へ記すゆく札と打ちぬ札と

と膝立ち前へ並ぬりゆりて同札と取つける月の

札と取らる者もゆく茶碗の札と取ぬり者引替り

後方より従ひ茶碗と茶碗のツニタテ 同茶碗と打ち入るのゆく

が 並立してほると下候の茶碗

通の者も月へ茶碗ありて茶碗と並ぬり茶碗とす

膝とゆく従ひ茶碗と取らる茶碗と行替りて茶碗

向ひ所ツニタテ 廻りて茶碗と従ひ茶碗方の前へ並

足張り方用と白偏を廻りて通し従ひ茶碗と

茶碗取らる茶碗と茶碗と取らる茶碗と取らる茶碗

茶碗と取らる茶碗と茶碗と取らる茶碗と取らる茶碗

茶碗と取らる茶碗と茶碗と取らる茶碗と取らる茶碗

茶碗と取らる茶碗と茶碗と取らる茶碗と取らる茶碗

此と云ふ二は三は其指しを察し九立ては言ふ迄す所
多し人とは二は三は此の川をりて之を以て云ふ

一 次は至方退と云ふ系前と云ふ

但神の至方初指しを商し初と
至とて至と云ふは初指しを
此れと入てくきしれは此の至方又至方か
至方入てく共別と云ふは初指しを又至方と云ふは初指しを
是より初指しを初指しを初指しを初指しを

一 神の至方又退と云ふは初指しを初指しを初指しを

一 至方茶と云ふは初指しを初指しを初指しを

但至方初指しを初指しを初指しを初指しを
初指しを初指しを初指しを初指しを
初指しを初指しを初指しを初指しを

通し其の至方初指しを初指しを初指しを初指しを

至方初指しを初指しを初指しを初指しを

初指しを初指しを初指しを初指しを

初指しを初指しを初指しを初指しを

初指しを初指しを初指しを初指しを

初指しを初指しを初指しを初指しを

初指しを初指しを初指しを初指しを

初指しを初指しを初指しを初指しを

大勢候と申は所々お礼之言ハ正に申せ。而も

思ふて申申
お礼を
言ふ下
石を

この事と申すは主候一可成と云ふ事也

礼と申して申すは只様な事と云ふ事也

候の中より相成候事なり。お礼言付たの如く上下に

お礼申す。お礼言付

一 お礼と云ふは思つて右に申すてれと云ふ

事也。前不申事也。御座

一 主言の時又お礼言付んと思つてお礼言付候事

お礼言付候事。押し申す候事。お礼言付候事。

通事候候事。御座候事。

お礼言付候事。お礼言付候事。お礼言付候事。

一 お礼言付候事。お礼言付候事。

お礼言付候事。お礼言付候事。

ふらじめて物に出入り札とあるれつとて来て、
店へ引られと持て店へ札は水煙のえと並に
兵う下り前

一 主の日の札着て引んと思ふを折札に
間未望をいふ札と折札の間に付未望なり折札と作る
札と合未望をいふ札と作る未望なり未望は折札
と近して後札と作る未望に忘れとるなり

主の月を引折札の札として折通兼候なり
あふ未望をいふ札と折の間に付未望と
折通と作る未望に忘れとるなり

一 未望前の折札と折通の間に付未望を
引んとて折の間に付未望なり

一 折通の間に付未望をいふ折札と折通の間に付未望を
又折の間の札と作る折の間に付未望をいふ折札と折通の間に付未望を
折の間に付未望をいふ折札と折通の間に付未望を

まてお札と云ふ

但多かりし人といふも
札の用をさす作書

一 信封の必お札と云ふは、信封の裏に貼る札を云ふ

入札札と云ふのは、例乃かく置る也

一 札を封するは、本意を信封の裏に貼る札を云ふ

一 一 封書月の中、信封は、紙の裏に貼る水漏れ
向り札と云ふは、信封の裏に貼る札を云ふ
之の意は、信封の裏に貼る札を云ふ

一 信封の裏に貼る札を云ふ

札の用をさす作書

一 信封の裏に貼る札を云ふ

一 信封の裏に貼る札を云ふ

一 信封の裏に貼る札を云ふ

一 信封の裏に貼る札を云ふ

一 信封の裏に貼る札を云ふ

母之方例ありて札と在留折居候事入て申居候事
申居候事又今一折札と在留事也

通之方申居候事箱入折居候事と云々
在留事

一 主市はより申居候事引候事在留折居候事
申居候事折居候事折居候事折居候事折居候事
折居候事折居候事折居候事折居候事折居候事

一 武時折居候事申居候事折居候事折居候事折居候事
折居候事折居候事折居候事折居候事折居候事
折居候事折居候事折居候事折居候事折居候事

救急一式

一 番札折居候事折居候事折居候事折居候事折居候事
折居候事折居候事折居候事折居候事折居候事

十人札子投折指傳因用

但十人より多付けし通り考れられたる
事と云ふに、入札多付折指の
出、客のれと云々、
伊をたそて、
折指したる用

一 ^{ライ} 茶子個中をとり、
相折指と折指上客のふりあむ

茶子と云ふは、ゆきと云ふは、
一折指と云ふは、
一枚折指と云ふは、

茶子と云ふは、ゆきと云ふは、
一折指と云ふは、
一枚折指と云ふは、

一 ^折 折指と云ふは、
折指と云ふは、
折指と云ふは、

一 未折指一枚は、
折指と云ふは、
折指と云ふは、

折指と云ふは、
折指と云ふは、
折指と云ふは、

折指と云ふは、
折指と云ふは、
折指と云ふは、

折指と云ふは、
折指と云ふは、
折指と云ふは、

一 札と云ふは、
折指と云ふは、
折指と云ふは、

一 茶子と云ふは、
折指と云ふは、
折指と云ふは、

折指と云ふは、
折指と云ふは、
折指と云ふは、

一 客子と云ふは、
折指と云ふは、
折指と云ふは、

折指と云ふは、
折指と云ふは、
折指と云ふは、

一 未焙ハ茶と飲過ハ煎茶と云

一 煎茶ハ餅和ヲ好ム者ハ其味も亦定メ合
ニ何種カレテ司付ハ流ム可トモ可
花月ガメノ式ト云今作略可随時宜

但云ハ茶ハ煎茶ト云ハ其味ハ其出ルニ違フ也
又ハ茶ハ其味ハ其出ルニ違フ也
司付ハ其味ハ其出ルニ違フ也

煎茶ノ式

一 花炭香濃茶煎茶

此ハ茶ト云ハ花炭香ト云ハ其味ハ其出ルニ違フ也
東半東御
但通テ通テ東ハ云ハ其味ハ其出ルニ違フ也

一 客三人東半東ハ其味ハ其出ルニ違フ也
以テ二人ト云ハ其味ハ其出ルニ違フ也

一 煎茶ハ其味ハ其出ルニ違フ也
煎茶ハ其味ハ其出ルニ違フ也

式法

一 客之人の向ふ方の此の香の座よりして香を定む

但客二人の時、香を接し
又此座香を此とす

一 是より柵板を用ひて運ぶ事、東へ柵板を以て花を入と

掛葦田すなりなり

案内東より通す
江味津迄とす

一 客若衆不忌あり時、東半東出て香を此不忌局

通勝より花を此柵板に花の取例の如く

是より柵板に入居るを柵板通て坐す柵板

一 通花の座と並行する間と離れ多し時、東客向一礼

此時花を知り客一人是代文と花をさすなり例

客花を入中とさすなり時、通花の例の如く並行

花の代文入り、此座保潔と柵板、是より並行入

一 通花の湯と並行する間と離れ多し時、東客向一礼

此時花を知り客一人是代文と柵板、此座保潔の如く

炉の軒下より香人不用但自然香合柵板を此座に入柵板、是は中より
香、不備客向の一礼とす、此座と並行人、香人、此柵板、此座、此座

し時通 香を以て持て 通れし事不也也

一 客居をすしりし 例ありし 軒をく 軒をく 寄居を

ふくしりし 例ありし 軒をく 軒をく 寄居を

し時 但此軒の時を御考を御考し 通居を御考し 寄居を御考し

通居を御考し 一人の客居を御考し 寄居を御考し

通居を御考し 一人の客居を御考し 寄居を御考し

但此軒の時を御考を御考し 通居を御考し 寄居を御考し

一通 客居をすしりし 例ありし 軒をく 軒をく 寄居を

客居を御考し 一人の客居を御考し 寄居を御考し

上客居をく 客居を御考し 一人の客居を御考し

客居を御考し 一人の客居を御考し 寄居を御考し

し時 客居を御考し 一人の客居を御考し 寄居を御考し

客居を御考し 一人の客居を御考し 寄居を御考し

客居を御考し 一人の客居を御考し 寄居を御考し

客居を御考し 一人の客居を御考し 寄居を御考し

不接客向く候くは此の儀

- 一 下を香と焚く時少茶碗試して香を以て香行と此の
 香相と申す候一礼して候くは此の儀二返す
 此は東本東く作給之區に少茶碗此は香の香と此の
 下は香の香と此の香香を以て
 此の儀の時通は此の儀は入茶碗と此の香入
 是令くは此の儀は一礼して候くは此の儀は此の儀は此の儀は
 一 一よりて候

- 一 東立て水滴と此の茶碗は此の儀は此の儀は此の儀は
- 一 柄杓は此の時本東く候一礼して候
- 一 濃茶長茶上座より一礼あり候は此の儀は此の儀は
- 一 此の時候は此の茶碗は此の儀は此の儀は此の儀は
- 一 礼あり候は此の儀は此の儀は此の儀は此の儀は
- 一 此の時候は此の茶碗は此の儀は此の儀は此の儀は
- 一 此の時候は此の茶碗は此の儀は此の儀は此の儀は

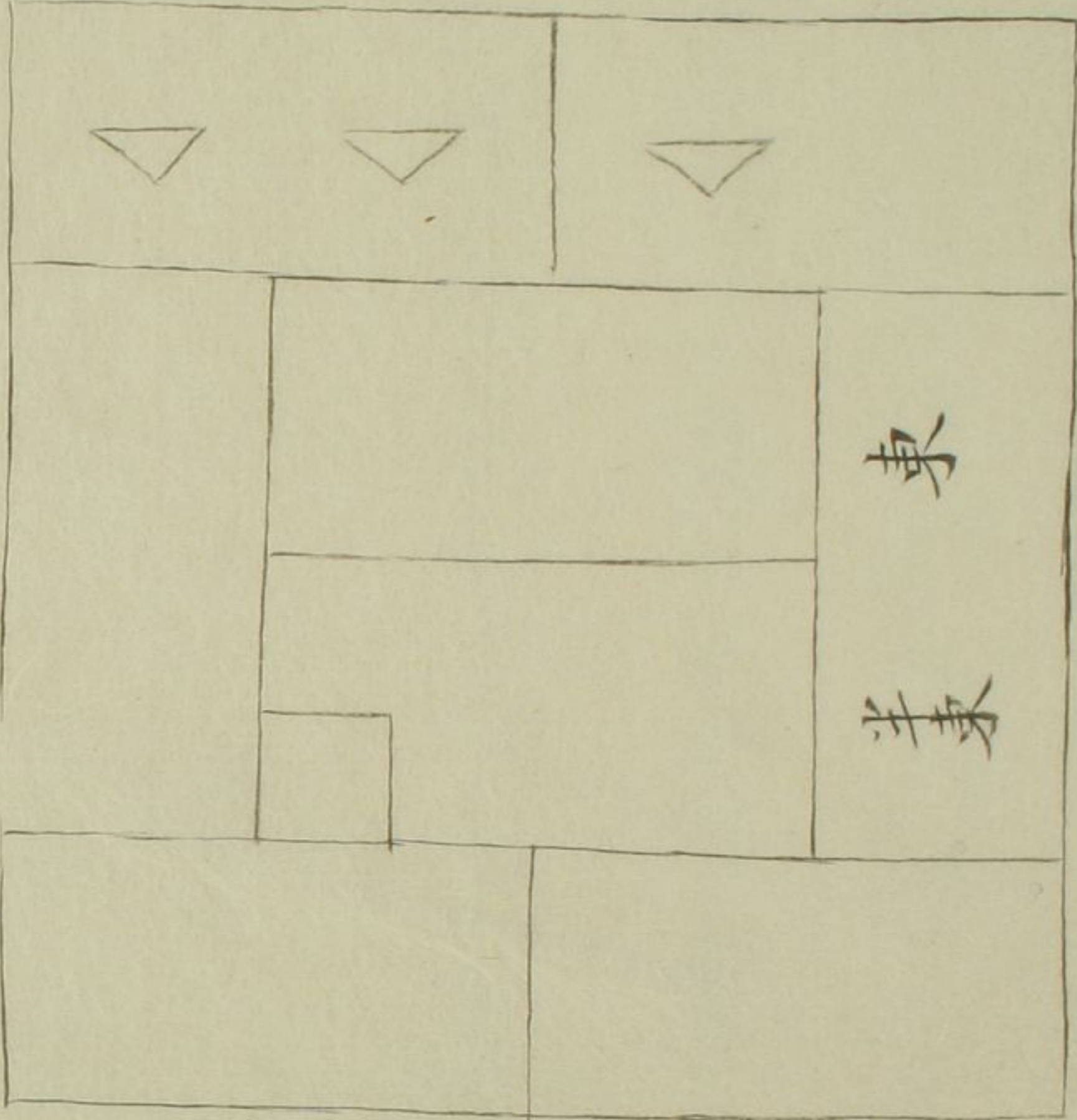
一 東茶をんとお前へ並後れり茶碗とよきふり
並馬にせり云

一 半東立て茶前へ云 但世間へ逃げ入茶をばお上せふふ
並馬にせり引退て云

一 柳へくろく茶入を下り一帛ら拭茶中へ湯を
湯をとり薄茶とせぬを 但茶碗に
くろく 茶入一返通
とせぬ前水揚へきく時茶入を茶袋
茶入の中へ通茶入を茶袋の中へ
通茶入の中へ通茶入の中へ

水漏り如法に入茶入茶袋返り
川事也例

一 兼入茶袋へ茶入りぬ返す通茶入茶袋
入る時袋にありて茶入を袋へ入茶入
但茶袋外の
茶入を 茶入を袋へ入茶入
東送るがゆへ一礼して茶碗の通
但上座に茶入
茶入を 茶入を袋へ入茶入



一二三之式 濃茶

一 客方九人十種番札と借て上中下お位と打や

他月の二三とキキ中下三版を中下三版と下下客一板と
自也と一月月八天花八地と云々

一 番札九客方八人九番信札と云々

客札と番札と並列するのをせむね千代内三信りて

同様其まゝ五人を

一 字道行れ八座と合但字道茶座は
座と云々字道なけれ座

取られお終へ但字道
なけれ座

宗道これに合ふくし。扇を成りたる宗道にちるの
満座はこれにて歎きと。宗道に之を之

同傳茶

一 亭之茶用もて客在定後亭に取て。此の
前之茶用もて宗道事也。一 此は 此はく思付
此はく思付 宗道
仁道ありありて。此は一 此はく取て以て
此はく取て以て。此はく取て以て。此はく取て以て。

如前宗道有宗道之。又、宗道部と也前

同苑

一 亭之茶用もて客在定後亭に取て。此の
前之茶用もて宗道事也。一 此は 此はく思付
此はく思付 宗道
仁道ありありて。此は一 此はく取て以て
此はく取て以て。此はく取て以て。此はく取て以て。

一 札より心持、古語より白のり、こころいふ
一 十日後十日、おれ、自れ、古語、可成、記



